

20周年イヤー

コクレオの森が、20周年を迎えました。この間、「大阪に新しい学校を創る会」、「箕面こどもの森学園」と団体名を変更し、たくさんの皆さんに関わっていただき、本当にありがとうございます。今年度は、「20周年イヤー」ということで、さまざまな企画を行っていきたく思いますので、ぜひ、タイミングが合うものにご参加ください。大きなものとしては、9月に「夢みる小学校」の上映と監督を交えたトークセッションの開催、年次報告書と組み合わせた20周年冊子の発行、20周年記念パーティーを企画中です。

市民が立ち上げた小さな学校に、今では70名の子どもたちが通い、100名を超える人が欠員待ちをするまでになりました。一人ひとりが大切にされ、人と人が信頼で繋がる社会を目指して、学校だけでなく、子育てひろばの業務委託や、里山センターの指定管理も始まりました。初めてのことに戸惑うこともあります、「自分も人も大切に」し「多数決ではなく対話を積み重ねる」 私たちが子どもたちに伝え続けてきたことが、学校という枠を越えて、地域社会の中でどれだけ実践できるのか、この教育の善さをどれだけ一般化して伝えていけるのか、みんなで知恵を絞り、これから先もともに歩んでいければと思います。(藤田 美保)



コクレオてらす

NPO 法人コクレオの森 2023 年度 通常総会のお知らせ

今年のNPO総会は2023年6月10日(土)14:00～予定しております。オンラインと会場のハイブリッド形式での開催です。総会の後、懇親会を開催予定です。なお、総会議案書は後日メールにてお知らせいたします。出席されない場合は、委任状等の提出をお願いします。

インフォメーション

…こそたての…

発見・つくるを楽しむ里あそびの3つの提案 (川西市里山センターにて開催)

◆親と子の土曜クラス「そら」 ※ただ今キャンセル待ち受付中

対象：満3歳～就学前の親子 活動時間：10時～15時
参加費：通年51,000円 / 前期:26,400円 / 後期:29,700円
前期日程 5月6・20日 / 6月3・17日 / 9月2・16日
後期日程 10月7・21日 / 11月4・18日 / 12月16日1月20日 / 2月3・17日 / 3月2日

◆土曜親子クラス「森のアトリエ」

対象：小学生の親子 活動時間：10時～15時
参加費：単発4,100円 通年27,000円 / 前期:14,000円 / 後期:17,500円
前期日程 5月27日 / 6月24日 / 7月29日 / 9月30日
後期日程 10月28日 / 11月25日 / 1月27日 / 2月24日 / 3月23日

◆小学生の里山スクール「風」

水曜クラス-前期(5月～9月)全16回 / 後期(10月～3月)全21回
木曜クラス-前期(5月～9月)全16回 / 後期(10月～3月)全21回
★水木クラス(月8回)・単発参加あります。詳細はお問合わせください。
参加費 通年(各コース)通年111,000円 / 単発4,100円
前期:51,200円 / 後期:67,200円

◆各コース8月・12月に特別企画オプションあり

子育てカフェ&子育てBAR こどもの森のハッピーアドバイス

「シーズン1*子どもの自己肯定感」オンライン開催
子育てカフェ:5/10(水)、6/14(水)、7/12(水) 10:00-12:00(昼)
子育てBAR:5/18(木)、6/22(木)、7/20(木)20:00-22:00(夜)

- 第1回 「自己肯定感の本当の意味」
- 第2回 「『甘え』と『甘やか』の違い」
- 第3回 「『ご存じですか?』『聴くこと』は子どもの自己肯定感を育む、ということ」
- 第4回 「自分で決めるとやる気が出る!」

定員:子育てカフェ/20名 子育てBAR/10名
参加費:2000円/各回



…おとなの…

こどもまんなか 学び場づくりプログラム ～こどもの声を聴くために～

Manabeeプログラムがリニューアル!
4月より施行された「こども基本法」をベースに、子どもが主体的に学ぶ場のつくりかたを体験的に学ぶプログラムです。

- ①講座「子どもを信頼することから」
6/17(土)10:00-17:00
- ②全日程参加者交流会(オンライン)
7/15(土)20:00-21:30
- ③講座&合宿「子どもとつくる未来～対話と参画」
8/19(土)10:00- 20(日)9:00
- ④共育プログラムづくり
9/16(土)10:00-15:00
9/16～プログラム実践当日までチームごとに準備

⑤共育プログラム実施
10月～11月 ご都合を合わせて実施

⑥報告会&交流会
12/16(土)15:00-19:00(軽食付き)

定員:全日程コース 20名 単発講座 10名/各回
場所:箕面こどもの森学園
参加費:全日程コース 59000円
(早割+特割で15000円引き。学割で20000円引き)



発行日:2023年4月28日
発行者:認定NPO法人 コクレオの森

〒562-0032
大阪府箕面市小野原西6-15-31
TEL&FAX:072-735-7676
メール:info@cokreono-mori.com
URL:https://cokreono-mori.com/



写真:入学と進級を祝う会

変わる景色、変わらないもの

矢吹 卓也

認定NPO法人コクレオの森は今年でなんと20周年です。ある資料には、創設者のまーちゃんが学校づくりへの歩みを始めたのは、1993年からだと書いてありました。1993年は僕が生まれた年です。その年から今まで歩みを続け、次の人へバトンを渡し、続いているのだと思うと、今までの歩みへの感謝とリスペクトの気持ちが湧いてきます。

創設当時は、常勤スタッフは今の代表理事のみほさん一人で、他のスタッフはほぼボランティアだったそうです。民家を借りてやっていたわくわくこども学校から、今の小野原の箕面こどもの森学園へ移設してきた時には、子どもたちは6名しかいなかったそうで、立ち上げ期の苦労は本当に計り知れないものだったのだらうなと思います。そのような地道な歩みの積み重ねが、定員一杯の70名の子どもたちが通っている今の学校や2校目設立に向けての活動、今年度からの黒川での里山センターの運営など、学校運営を超えたコクレオの森全体の活動へと繋がっているのだと思います。

先日、スタッフの歓送迎会をして、立ち上げ期のメンバー2人がスタッフを卒業し、新しいスタッフが仲間に加わり

ました。コクレオの森の「森」という意味には、一人ひとりが1本の木として、みんなで森をつくっていくという意味が込められています。人が変われば、森の景色は変わっていきます。そこに良い悪いはなく、景色が変わっていくことに寂しさを感じたりもしますが、葉が落ちていくことや、木が枯れていくことは、土壌を肥やし、新たな育ちが生まれる空間となります。そうやって、森の景色は変わりつつも、今までの人たちの歩みは土壌を肥やし、変わらない本質的なものは引き継がれていくのだと思います。

コクレオの森の土壌には「自分も人も大切に作る文化」が育まれています。4月からのこども基本法の施行など、「こどもが学びの主人公」「学ぶと生きるをデザインする」を謳い続けてきたコクレオの森に改めて風が吹き、光が差しそうとする社会になってきていると感じます。僕は今、いろんな人がともにつくり、育ててきたコクレオの森の土壌から、信頼のあたたかさを感じています。会員の皆さんは、そのような場で今、何を感ずますか? 何を願い、何をしていきたいですか? 今年度も皆さんとともに過ごし、ともにつくっていただけることを楽しみにしています。

《編集後記》

前号(9号)の表紙に20周年ロゴ作成中の写真が載りましたが、そのロゴが完成し、今号(記念すべき10号)から掲載しています。今年度は、いろんなチラシなどに登場します。みんなで作ったロゴです! どうぞ、ご覧ください! (中村 幸子)

こどもの森



自分の世界を広げ、社会とつながる

中学部では、2022年度3学期のワールドオリエンテーション(WO)のテーマを「マイメディア」として、一次情報を集めて、自分なりの方法で発信することにしました。今回は特に、当事者の方にインタビューすることに取り組んでもらいました。「どんなことを調べてみたいか」「どんな人に話を聞いてみたいか」を考えて、それぞれにテーマを設定し、訪問先が決まれば、アポイントを取るために中学生が自ら電話を掛けていきました。「緊張する〜！」と言いながら、神妙な面持ちで電話番号を押していました。なかには予行練習してから電話をする人も。知らないところへ電話を掛けるのは第一関門であり、最大の壁であったようです。

そして、それぞれが計画を立てて、訪問先へと出掛けていきました。初めての人に会うことに対して不安が大きいのか、「行きたくない」とぼやく人もいたので、こちらも少し心配になりましたが、出掛けていった次の日、「どうだった?!」と聞くと、スッキリした表情で「想像していたよりも楽しかった」「心配していたよりも大丈夫だった」と。当初の不安を覆して、取材を終えることができました。『案ずるより産むが易し』。まずは一歩踏み出してみることで、そしてこちら中学生を信頼して送り出す心持が大切なのだということを感じました。

発表では、自分自身が見聞きしたこと、そこで感じたこと、考えたことを伝えてくれました。「話を聞きたい」という中学生の想いを受けて取材に応えてくれた方がいて、そして、その方の仕事や活動に対する想いに中学生が感化されるというような、気持ちの連鎖を感じました。

外の世界に一歩踏み出すことができたWOでした。知らない場所に踏み込むのは、不安だし怖いことだけれど、知ることによって広がる世界があります。WOを通して「自分の世界が広がる」「自分と社会が繋がる」そういう経験ができればと思っています。今回中学生をあたたかく受け入れてくださった訪問先の方々に、深く感謝いたします。(鍋内 郷子)

こそだての森



参加するだけで自己肯定感が育つ。子育てカフェ

今年で9年目を迎える子育てカフェ。「子どもがいきいきと自分を生きる、その土台となるのが自己肯定感」「子どもの自己肯定感、親(わたし)の自己肯定感と繋がっている」ということを、箕面こどもの森学園19年間、子育てカフェ8年間の積み重ねの中で見えてきた11の切り口からお伝えしています。途中、コロナ禍でオンラインに切り替えて続けてきましたが、先日3年ぶりに、2023年度キックオフとして1日限りのリアル子育てカフェを開きました。ずっと画面越しにお会いしていた人たちと、初対面のような再会のような不思議な気持ちで喜び合いました。また、初参加の人たちともご縁が生まれ、こどもの森のホールは心地良いエネルギーで満たされました。

子育てカフェではいつも「ダメな自分でもいい。あるがままの自分を受け入れることで自己肯定感が育つ」とお伝えしていて、常に受容的な雰囲気です。また、参加者の方たちの気づきのシェアが素敵で、それが居合わせた人たちにさらなる気づきを促してくれます。参加者の方たちからも「心が軽くなりました」「本心を正直に話せるととても素敵な場。ありがたいなという気持ちでいっぱいです」といった嬉しいお声をたくさんいただけるようになりました。ただ知識を得るだけでなく、参加することで自然と自己肯定感が育っていく場になっていることに、深い喜びを感じています。

4月からまた子育てカフェが始まります。「子どもの自己肯定感」「大好き！が伝わる子育て」「わたしの自己肯定感」という3つのテーマで自己肯定感を育む方法をお伝えし、体感できるワークをしていきます。そして、夜の部として「子育てBAR」を始めることになりました！ 昼だと参加できない方たちとも、このあたたかい時間をご一緒したいなと思います。お仕事終わりに一杯飲みながらやりましょう。お待ちしております！(守安あゆみ)



ミライの森



コクレオの森の拠点が増えました！

川西市から指定を受けて、2023年4月1日から川西市黒川里山センターを管理・運営することになりました。里山センターは、元は小学校だった趣のある木造校舎で、周辺には里山の景色が広がり、それも併せてノスタルジックな風景を見ることができます。

コクレオの森との繋がりとしては、6年前からこの場所で未就学児～小学生とその保護者を対象とした自然体験学習を実施したり、こどもの森の子どもたちが遠足に出掛けたり、地域の方と一緒にウッドデッキを改修したりしてきました。黒川という地域は、約40戸、人口100人余りが住む小さな地域です。今後は親子参加の里山体験の他、小学生対象の里山スクール「風」、大人向けの里山講座や、地域の人たちとご飯を食べる「みんな食堂」などを通じて、都会と黒川地域を繋いでいくと共に、黒川の皆さんと相談しながら、将来地域の担い手になってくれる方を呼び込みたいと考えています。

今後イベントの告知や里山センターの修繕作業のお手伝いを呼び掛ける予定ですので、センターのInstagram、Facebook、Lineに登録していただくと嬉しいです。貸室利用の予約もお待ちしております。気軽に遊びに来てくださるのも大歓迎です。(大橋 寛実)



川西市黒川里山センター

場 所：兵庫県川西市黒川谷垣内295

開 館：水曜～日曜日の9時～17時(月・火・祝 休館)

電話番号：072-738-0107



コクレオの森～2023年度の予定

◇総会 & 懇親会 6/10

◇20周年 映画上映イベント 9/23

◇運営委員会 5/13、7/8、9/9、11/11、1/13、2/10、3/9

◇コクレオオープンカフェ 10/7、12/9

「ともにいる」時間～コクレオオープンカフェ～

この度、コクレオ会員が集う場として「コクレオオープンカフェ」を始めることになりました。オープンカフェは参加者が話したいテーマを持ち寄って話す場です。それぞれ興味がある話題のところに集まり、対話します。ラフなテーマから真面目なテーマまで、いろんな話題が集まれば良いと思っています。もちろん話したいテーマが思いつかなくてもOK。コクレオ関係の人たちと話したいと思った時に気軽にお越しください。

会の始まりには、最近のコクレオのいろんな活動について共有する時間もとります。コクレオは「こどもの森」「おとなの森」「こそだての森」「ミライの森」といろんなことをやっているけど、結局何をしているのか分からないという方もぜひ。

コクレオの森は、多様な人と「ともにつくる」ことを大事にしています。それぞれの個性ややりたいことがあって、それを大事にしながら「コクレオの森」という森をともにつくっていききたいです。ただ、いきなり「ともにつくる」ことはハードルが高いと感じる人もいるのではないのでしょうか。「ともにつくる」前には「ともにいる」時間が大事だと思います。いろいろおしゃべりするなかで、お互いのことを知っていけると嬉しいです。終わった後には、行ける人でご飯でも行きましょう。

楽しく、気づきのある時間になればと思っています。箕面こどもの森学園でのリアル&オンライン開催です。ぜひ、気軽にお越しください。(矢吹 卓也)



トピック！

こどもの森コーラス部、はじめました～

コーラス部は、こどもの森スタッフと「最近大きな声出してないから、みんな歌ったりできたら楽しそうですね」という話からトントン拍子に進み、保護者7名、スタッフ4名でスタート。初めての試みは、卒業を祝う会に「卒業生に歌を贈る」ことでした。事前録画でしたが、最後までハプニングもありつつドキドキ(詳細ブログ参照)。「あーしよう！こーしてみよう！」と現場でも対話を重ねて素敵な贈り物が完成。皆が、できた喜びと共に達成感と満足感を味わい楽しんだひとときとなりました。

こどもの森は、一人ひとりの個性を尊重しつつ、民主的に生きる市民を育てることを目的とし「ともにつくる」を大切にしています。こどもの森の大人たちも、いつの間にか「ともにつくる」を実践していた時間でした。コーラス部では、みんながそれぞれできる範囲でできることをして楽しむ、を大切にしています。次回6月予定、部員募集中。楽しくともにつくりませんか～？(林 めぐみ)

保護者より

22年度こどもの森卒業生の保護者特別編

コクレオ箕面こどもの森学園の卒業式終えて

お天気に恵まれた3月10日に息子が無事卒業しました(泣)。
 思い返せば親元を離れて小学校6年から中学1年の途中まで過ごしていた、鹿児島県の山村にあるオルタナティブスクールからコロナ禍の影響もあり大阪へ戻って来る際に、彼に合った個性を大切にしている学校を探していたところ、こちらの学園に出会うことができました！
 私達が住んでいる岸和田からはかなり遠かったのですが、当時13歳だった彼は遠くても通いたいと決断し、転校を決めました！改めて考えると、毎日ほぼ休むことなく往復約3時間もかけてよく通ったなど…でもそれだけ魅力たっぷりの学校だったんだなとしみじみ感じました…。
 入学後は慣れない長時間の電車通学のストレスもあり、人前で話すことも苦手な方でしたが、通学にも慣れてパワーポイントを使った発表も徐々にこなせるようになり、朝のハッピータイムの司会も積極的に引き受けるようにもなりました。また木工の時間にはとても中学生が作製したものとは思えないほど、本格的な本棚や机を作ったり、月1回のお誕生日会には自宅でクッキーやパンを手作りして学校でプレゼントしたり、モノを作る際の集中力や人に対しての優しさがどんどん育まれていったように感じました。
 このこどもの森の中学部は「学ぶと生きるをデザインする」というコンセプトがあり、自分で決めたペースで勉強し、決して他人と比べるような教育はせず、スタッフの皆さんが本当に子どもたち一人ひとりの気持ちや考え方を尊重して、それぞれ個人の成長のためにしっかりサポートして下さる素晴らしい環境です!! 正直、保護者である私たちも彼と一緒にいろんなことを学ばせていただきました(笑)。
 高校の進路は調理に特化した学校を選択しましたが、このコクレオでの学びや経験を活かして、さらに自分自身をデザインして行ってほしいと切に願っております。
 スタッフの皆様にはとても広い心で、彼の個性を大切にさせていただいて本当に感謝の言葉しかありません!! 2校目の開校を心待ちにしております。(武島 誠&佐代子)

安心して学べる場所

学校に向かう車の中でレミオロメンの「3月9日」を聴きながら気分を最高に盛り上げて、ついに迎えてしまった3月10日、卒業式。安心して自分らしくいられる、ずっといたかったこどもの森からの旅立ちの日です。1年5ヶ月前、それほど乗り気ではないけれど、少しの興味と精一杯の勇気を振り絞って飛び込んだ学校が、思春期ど真ん中の咲樹の根っこをたくましく育てくれる場所になるとは思いもよりませんでした。「スタッフ以外誰ともしゃべらんかった」と帰ってくる心配し、「はんちゃんがこんなこと言ってくれた」と帰ってくると少しホッとし、そのうち「笑い過ぎておなかが痛い」と帰ってくる毎日になりました。
 「いい学校に行きたい」、咲樹が小学校4年のときに言った言葉。咲樹の思う「いい学校」って？ 答えが見つからないまま、中学受験の後こどもの森に出会いました。入学前にみほさんに言われた「1年後のさきちゃん」はよりさきちゃんらしく、さらにさきちゃんらしく成長しました。どんな時も見守ってくれたスタッフの皆さん、個性にあふれたあたたかい保護者の皆さん、一緒にいてくれたこどもの森の友達。
 「さきちゃん」って何千回何万回も呼んでくれてありがとう。たくさん子どもたちが安心して学べる場所がこれからもっと増えていきますように！(田中千賀子)

こどもの森の経験

私は現行の学校教育を受けて育ち、『自分の考えをどうまとめ、どう伝えたいか?』社会に出てからとても悩みました。なので、息子には【自分で考え、自分の意見を持ち、行動できる人になって欲しい】という思いがあり、それを育てる学校、教育を求め、フレネ教育やサマーヒルの教育を取り入れている箕面こどもの森学園とのご縁をいただきました。自分の感情が制御できなかつたり、思いを上手く言葉として表現できなかつたりする小学生時代、クラスメイトと気持ちがぶつかることが多々あったと思います。そんな時、学校スタッフが関係者で話し合う場をもうけ、全員が納得するまで根気よく関わってくれました。また息子は『親に心配かけたくない』と考えるタイプの子で、悩みをあまり話してくれませんでした。そんな息子が、こどもの森にいられたことで、学校スタッフには相談でき、悩みや苦しみを乗り越えられてきて、とても感謝しています。そういった環境に9年間もいられたことで、自分の意見、他者の意見、両方を大切に、話し合い、お互いが納得する答えを出そうとする思考や感情が身につきました。私自身、こどもの森の考えに触れ、物事を多数決で決めるのでは無く、少数の意見にも耳を傾け、みんなが納得する答えを得ようとする大切さ気づきました。この学校とご縁をいただけ本当に良かったと強く感じています。こういった、「自分とは?」に向き合い、「他者の意見に歩み寄る思考」が育つ、箕面こどもの森学園2校目設立に向け、陰ながら力になれたらと思っています。(長岡 久美子)

こどもの森のフィロソフィー

3月10日の卒業式は、夫と二人で楽しく参加させていただきました。小学部・中学部併せて15人の子どもたちが、自分の言葉や動作・ペースで卒業にあたっての思いを語っている様子からは、一人ひとりの個性がキラキラと伝わってきて、こどもの森のフィロソフィーが凝縮されたようなとても素敵な時間でした。
 一昨年の12月、娘がこどもの森に体験入学させていただいた頃には、親子でこんな日を迎えることができるとは全く予想できない状態だったので、なおさら感慨深かったです。娘は、中学生になってから学校や家でしんどい思いをたくさんしてきたと思いますが、私たちの前で泣くことはありませんでした。そんな娘が、こどもの森の卒業式ではみんなの前で泣いていたので、ここは自分を出せる居場所になったんだなと本当に嬉しく思いました。親子の時間はこれからもずっと続いていきます。道に迷った時はこどもの森で学んだことを思い出して、ゆっくり歩んでいければと思っています。1年3ヶ月という短い間でしたが、本当にお世話になりました。ありがとうございました(川人よし恵)

いろんな展開...そこからの対応能力!

3月10日の卒業式。たくさんのお気持ちが込み上げて、いっぱい泣きました。
 兄弟でこどもの森に通った8年間。いつも見守り続けてくれたスタッフ、そして家族の一員のよう、いつも受け入れてくれたメンバー。本当に、子どもも大人も楽しかった時間でした。
 ここで過ごした時間を言葉にするなら、対応能力!子どもたちを見ていて一番感じることでした。きっと日々の出来事を切り取ると、どここの環境でもいろんなことが起きているのかなって思うんだけど、その出来事から、いろんな展開があるのがこどもの森の面白さかなって。出来事をただ良いとか悪いとかではなくて、どうしたらみんなでも上手にいくかな?どんな選択肢があるかな?この出来事から何が学べるかな?そこをことごとく話し合う。なかなか根気があるかな?それをやっける子どもたちは凄いです!ただ多数決をとるんじゃなくて、みんなの気持ちを大切にしたいと思う場合は、きっと上手くできなくても、子供たちの心にはその思いが伝わっているのかなって。
 そんな環境で過ごせた8年間、安心して子どもたちに寄り添えました。親以上に子どもたちを感じてくれているスタッフ。そしてその縁で関わられた、個性豊かな大人メンバー。きっとこの8年は、子ども以上に私が楽しかった時間かも(笑)。これからも、ずっと応援しています!まだまだ一緒に楽しむよー!(里見 美智子)

子どもの森という「社会」

今年3月10日に小学部を卒業いたしました中野聡太の両親です。聡太は1年余りの短い『箕面こどもの森学園』での生活でしたが、大変楽しく有意義な時間を過ごしたと思います。
 小学校5年になる際、福岡から大阪の公立小学校に転校してきましたが、全く異なる学校の扱いに慣れず、登校に疲れた学校生活に希望を失っていました。
 インターネットで『箕面こどもの森学園』を知り、門を叩き受け入れていただきました。我々家族は学園との出会いで希望を見出しました。これまでの上からの詰め込み教育とは異なり、自分を大切にすることで友達も大切に、「自己肯定」を感じながら学園生活を送ることで、自分で考え自分で行動し、学園の皆さんとも共存するようになり、そんな『社会』にいたように思います。そのため、日に日に元気になり、楽しく登校する姿に安堵していました。修学旅行など学園行事にも積極的に参加し、自ら勉強もやっていたように思います。
 中学校は他の学校に行きますが、この1年余りで身につけた自己肯定感、友達を大切にする姿勢は今後の彼の人生を大きく開花させるものだと思います。
 今後も『箕面こどもの森学園』の考え方を学び行動できる多くの子どもたちを輩出する、そんな学園が益々発展することを願っています。最後に皆様には大変お世話になりました、ありがとうございました。『コクレオの森』に幸あれ!(中野 茂樹)

あっという間の9年間

入学前の面接で、なぜこの学園に入りたいのかという問いに「お弁当が食べられるから!」と答えた湊。それでも入学を許可していただき、2014年春「こどもの森」の小学部1年生となり、学園生活がスタートしました。入学して1ヶ月ほど経ったある日、妻が湊を迎えに学校に行く、と上級生の女の子達がやってきてこう言いました。「湊に言ってほしいんです。学校で裸で走り回るのはやめてって。」…驚愕しました。そんな驚くような出来事を時折起こしては、スタッフに諭していただき、ぶれることなく学校に通い続けて9年。立派な一本の木となり、ついに卒業となりました。本当に、9年間お騒がせしました。今では私より背も高く、肝も据わった立派な青年になりました。
 私自身は、2016年から4年間「コクレオてらす」の前身である「こどもの森通信」や、記念冊子などの編集のお手伝いをさせていただきました。最初は慣れない作業に戸惑いましたが、まーちゃん、アミさんの愛の猛稽古や皆さんに助けられ、前に進むことができました。
 運営やイベントなどで一緒にできた方々や子どもたちとほっこり楽しい時間をともに過ごせたことは素敵な思い出でもあり、とても誇りに思っています。これから社会に出る皆さんの未来がとても楽しみです。
 コクレオの森には今後も自由な発想で、のびのびとした空間をつくり続けていただきたいと思っています。本当に長い間ありがとうございました。(日置 健作)

『コクレオの森・箕面こどもの森学園』と有志と奈留美

中学2年生になる4月から入学した有志。入学前の見学では、学園の自由さに目を輝かせ、入学することを決意。その時の有志には、公立の学校には無かった自由さが楽しそうにうらやましく思えたようでした。しかし、いざ入学してみると、慣れない学習環境、計画を立てて自律して学習することの大変さを痛感する日々。それでも、こどもの森で過ごす日々は楽しく、長期休みの時には「早く夏休み終わらんかな。学校に行きたいわ。」とか、「歩いて10分の学校より、1時間半かかっててもこどもの森に行く方が楽しい。」なんてことを言うようになっていました。
 どれくらい通った頃か忘れてしまいましたが、有志の口から思ってもよらない言葉が出たことに驚かされました。「自由ってほんまに大変やけど、これ乗り越えたら天才になれるんやで。」こどもの森での生活の中で、有志なりに「自由」と向き合っていたのだなと、感心させられました。

角野 奈留美、
 妻の奈留美は、有志の入学に関して少し心配している面もありました。公立の学校から出る、いわゆる『一般的な道』から外れることへの不安があったようです。それが今や、家族で一番コクレオの森・箕面こどもの森学園に入っているのは、妻です。有志が楽しく通っていた姿を見ることができなくなってしまうのが特に辛いようで、次男にもこどもの森の中学部を勧めているほどです。
 僕自身のことばはほほ書けませんでした。この2年間には感謝しかありません。ありがとうございました。(角野 文宣)



ゴドモテラス 『高学年の日常記録』

2.3学期編

スタート

チノゾーン

「ナニカを見て」
12月13日
「これは6年とスタッフゴドモテラスをねじに、にあるが話し合、ている写真」

12.13
「からだつくりで、このボードを見て、たがスタッフと共2人で、るおしてました」

「誕生日会で誰かがカバンに、さえています。」

「高学年自慢の、イケメンにかマラカ、ゆけたが、まぶかの、変顔。」
12.14

「誰か、おどろか、せようとしていたか、スグッが来ておど、ろい、びんぐり!!」
12.19

「風に、だいたい、うを、して、いたが、うしろが、手て?!!」

「カメラを、肉けた、は、スグッ、顔を、さ、か、ま、し、て、こ。」

「高学年部屋で、いきなりストレッチを、始、める6年生」

オンラインゾーン

「プロシットで、フォワードの、描、し、た、め、なら、なん、でも、は、ま、す!」
1月20日

「テーマの、く、ら、い、に、こ、ろ、で、話、し、合、い、中、に、か、ら、で、構、と、全、員、ピ、ース!」

「高学年集会中、ら、ざ、け、て、い、る、人、発、見!!」
1月20日

「10分休憩、1人の世界に、ハ、マ、タイ、グ、中!!」
1月20日

「だ、れ、だ??」
1月20日

「誕生日会での、へ、い、お、に、ら、い、に、か、マ、ラ、を、開、け、た、ピ、ース、は、す、ず、か、目、録、は、ど、こ、へ、...」
1月20日

「昼休、中、写、り、た、か、り、の、村、登、場!」
1月20日

「3学期の、始、まり!!、新、しい、フ、ァ、ミ、リ、ー、で、の、顔、合、わ、せ!!」
1月20日

オンラインゾーン

撮影者ナリキ

1.23 『集会中』

1.24 『荷物持ち係』

1.30 『7.キング』

1.31 『なんかエモイ??w』

2.1 『サイコの変顔』

2.2 『ピアノ練習中』

2.3 『顔面ドア7』

3回目のOFA指導者研修会!!
2.17 『チョー乗れた。』

音楽部
卒業式に向けて歌の練習中~
みんなの声を合わせるのが難しい...
2.16

「研究発表会」
「言葉を聞かずに、ピ、ース、する、2、人」
2.15

卒アイル作り。
このコマが来たか、に、卒業、し、ち、や、う、を、思、う、3、人
2.13

「火をつける人1つおじさんになる!」
2.10

「キラキラ」
2.9

「そろそろお終り~」
2.8

「テーマのため、火をつける実験!!」
2.6

3/6
「変な女を、も、こ、い、め、る」

3/7
「3/17」

3/8
「最後の全校集会!」

3/9
「明日は卒業式! 祝う会のハ、ハ、ル、中」

卒業式

3/15
「3/15」

3/16
「本のせりをする、5、人」

3/17
「3/17」

2.6
2.17
「2.6」

INSANIS DAYS

ではまず締め切り破りの最大の功労者、長岡さんの記事から Let's Go

こんにちは～
今回は記事を書かずに編集しているみどりです。
3学期で時間がないのはわかるのですが、なんと今回ついに編集長だけでなく...**全員**締め切りを破りました!! まあ、編集長が一番遅かったんですけど((
そんなわけで、提出締め切り前日に急いで編集しています。初めて編集するので拙いところもあると思いますが、楽しく読んでいただけると幸いです！



「高校受験の壁、内申について」(寄稿)

こんにちは。元こどもの森生で中一のオクラ(仮名)です。編集長であり友人の康平とスタッフの方々に「INSANIS DAYS に寄稿させてください！」と頼んだところまさかの快諾、寛大な心に感謝しつつ書かせていただいています。今回は、オルタナティブスクール生の高校受験の壁・内申について書こうと思います。

公立高校(一部の私立)の受験では、中学校のころの生活態度や成績、出席日数の評価が内申点として加算されます。学校に行かない生徒は、そもそも出席していないために内申点が非常に低くなり、公立高校に合格することはほぼ不可能になります。私はそのシステムに疑問を抱いています。一般的な中学に行かなかった生徒は公立高校に来るべきではない、というのは頷けません。中学校に行くかどうかは個人のライフスタイルであるにもかかわらず、行かないことを選択すると公立高校で学ぶ道が実質的に閉ざされることは「教育を受ける権利」の侵害とも言えるのではないのでしょうか。学校に通うことに抵抗を感じて、高校でのリセットを目指している中学生にとって、高校で自分に合う学校を見つけることは非常に重要です。だからこそ、公立・私立問わず沢山の選択技があることが大切だと思います。

以上、内申に関する所感でした。疑問を持った制度を変えていくためには少しでも声をあげてアクションを起こすことが必要だと思い、その第一歩として INSANIS DAYS に寄稿させていただきました。最後までお読みいただきありがとうございます。

「俺的鉄道ニュース」

Insanis days 最後の記事と言うことで僕の好きな鉄道の最近の動向について語ろうと思います。

その1「大阪駅新ホーム開業」

2023年3月18日にJR各社はダイヤ改正を行いました。そして今回の改正でついに！梅田貨物線という新大阪～福島を結ぶ短絡線(ショートカット)が、新しい線路に切り替えられ、大阪駅の北側に地下ホームが開業しました。そして今回の地下ホームで新しい技術が試されており、いろんなドアに対応出来る画期的なフルスクリーンホームドア、顔認証で通過できる改札機、スマホと連携し利用者の欲しい情報が表示されるデジタル案内板などなど、未来を感じる面白い駅になっています！そして、元々貨物線として運用されていたので当然、この地下ホームを貨物が通過していく光景を見ることが出来ます！
しか～し、福島駅側の勾配(坂)がキツくなっており、従来では普通に機関車一両で通過していた所が、後ろに補機という補助する機関車を一両つけて、登るようになりました！その姿はもう**最高**ですね！こんな感じで非常に魅力の詰まった新ホームとなっていますので、現地、または動画でご覧になって見て下さい！



鉄道新聞より

その2「復活した準特急」

2022年12月17日のダイヤ改正で、阪急の**快速急行**が**準特急**に**名称変更**がなされました。元々**準特急**は国内で京王にのみ存在していましたが、京王のダイヤ改正で消滅していました。ですがこの度阪急にて復活しました。ですがなぜ名称変更が行われたのでしょうか？
ずばり！2024年に京都線での座席指定サービスを見据えたものとなっています。この座席指定サービスは**通勤特急**、**特急**、**快速急行**(現:**準特急**)で開始されるのですが、**快速急行**だけ**急行**に使われている黄色の幕でややこしい！！と言う事で**色を合わせる**ために、**準特急**に変更されたという訳なんです～。



レイルラボより

名称変更



鉄道ファン railf.jp より



卒業メッセージ...なんと3人居なくなる



一年間インサニスでお世話になりました。咲樹です。
最初はイラストだけ担当しようと思ってたけど、途中からは記事が書きたくなって、研修旅行の記事は少しだけ書けたので良かったです。
卒プロなどの他の事をしていたのでインサニスに深く関われなかったのが残念でしたが、自分の描いたイラストや記事が採用されて、全部の完成を見た時の達成感が大きかったのでとても良い経験になりました。
ありがとうございました。

中3からインサニスに入った川人愛実です。
イラストを1回担当したんですが、放課後残ってみんなでしたのが大変だったけど楽しかったし、いい思い出になりました。最後までできなかったけどいい経験になりました。ありがとうございました。

編集長兼、ライター 長岡康平です
自分は vol.2 の時に、記事書くのに興味が合って加入しました。そして、編集長を決めない？と提案した所、なぜか自分が編集長になっちゃって、記事の構成を見直したり、レイアウトしたり、初心者ながら頑張ってきました。次年度では風歌と頼礼が卒業して、たっつーと僕だけになってしまい存続の危機が訪れました。新メンバー来なかったら解散かなあ…的な事も考えていましたが、お陰様で4人も加入してくれました！締切で苦勞を掛けたり…締切で…締切…… 締切に追われてばっかでしたね。そんな感じで辛い時もありましたが、読者様の面白かったよと言う言葉に支えられてここまでやって来れました！ありがとうございます。次年度の Insanis days にも乞うご期待！
それでは...あ、ちなみに次号に卒プロの動画載せます。